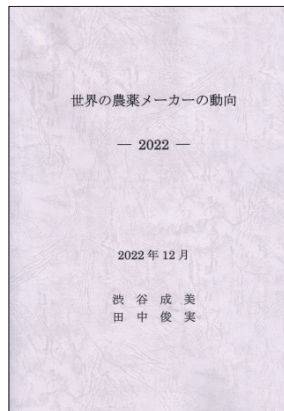


書評

世界の農薬メーカーの動向—2022—
 渋谷成美・田中俊実 著
 A4版, 267頁, 45,000円+税
 2022年12月1日発行
 購入申込先: エイムス株式会社
 FAX: 045-871-8030



私が農薬メーカーに入社した1980年代における世界の農薬売上高上位20社は、バイエル社、チバガイギー社、シェル社、モンサント社、ローヌ・プーラン社、ゼネカ社、BASF社、ヘキスト社、イーライリリー社、デュポン社、スタウファー社、ダウ社、ユニオンカーバイド社、アメリカンサイアナミッド社、FMC社、ロームアンドハース社、クミアイ化学工業、FBC社、シェーリング社、シュブロン社であった。それから40年経った2020年の農薬売上高上位20社を見ると、当時の社名を残しているのは、バイエル、BASF、FMC、クミアイ化学工業のみで、世界の農薬メーカーの再編が進んでいることが示されている。

例えば、1996年にチバガイギー社は、サンド社の農薬部門と合併しノバルティス社を設立、2000年にゼネカの農薬部門と合併しシンジェンタ社を設立、2017年には社名は残すもののケムチャイナ社がシンジェンタ社を買収している。1999年にヘキスト社とアグレボ社が合併して設立したアベンティス社を、2002年にバイエル社が買収、同バイエル社は2018年にモンサント社を買収している。1986年シェル社を買収したデュポン社

は、ロームアンドハース社を合併したアメリカンサイアナミッド社を買収したダウ社と2019年にコルティバ社を設立している。日本においても同様に農薬会社の再編が行われ、武田薬品、塩野義製薬、三共等の医薬会社の農薬部門は切り離されてきた。2002年、武田薬品の農薬部門を住友化学が買収し、住化武田農薬を経て住友化学に併合された。塩野義製薬は、2001年に農薬部門をアベンティス社とアベンティスクロップサイエンス塩野義を設立し、2002年バイエル社によって買収された。2007年、三共の農薬部門を三井化学が買収し三共アグロを設立、2009年に三井化学の農薬部門と統合し三井化学アグロを設立した。三井化学アグロは、2021年に明治製菓から分社化したMeiji Seika ファルマを買収した。

本書は、このような農薬メーカーの設立時から現在までの合併・買収等の動向はもちろんのこと、各社が開発した化学農薬原体のISO名の取得、登録、失効の年や譲渡・取り扱い先等が掲載されており、農薬の開発から販売までを把握するのに有用である。また、近年SDGsが提唱され、欧米では農薬の使用削減が謳われている中、農薬メーカー各社では、生物農薬やバイオスティミュラントを開発・所有している企業を買収や売却が多く行われるようになってきている。本書は、これらの動向についても詳細に掲載されている。

現時点での農薬メーカー、農薬の動向について把握し、将来の方向性を見極めるために本書の役割は非常に大きい。本書の著者の一人である渋谷成美氏は、「SHIBUYA INDEX」の編著者でもある。「SHIBUYA INDEX」は日本のみならず、海外で開発・登録されている農薬の成分名、商品名、開発番号、メーカー名、構造式、製剤種類、有効成分含有量、毒性（ほ乳類・魚）、登録年、失効年等、多くの情報が1冊に見やすく取りまとめられている。「SHIBUYA INDEX」は、薬剤からみた農薬の開発を、本書は、農薬メーカーからみた農薬の開発推移を理解することができる。「SHIBUYA INDEX」と本書「世界の農薬メーカーの動向」は、農薬を研究する研究者のみならず農薬にかかわる人の手元に置いて欲しい書である。

(一般社団法人 日本植物防疫協会 曽根信三郎)